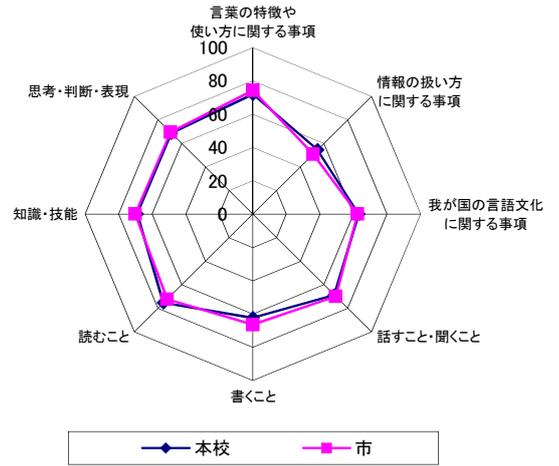


# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.0	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	54.6	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	63.1	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	68.7	69.9	69.7
	書くこと	62.3	66.4	64.6
	読むこと	75.4	72.3	71.0
観点別	知識・技能	68.9	70.1	70.0
	思考・判断・表現	68.8	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

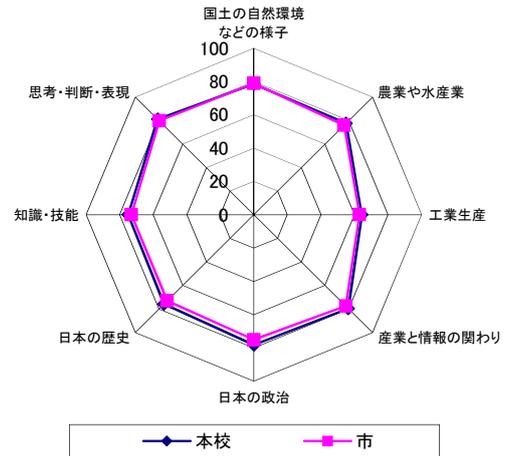
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この領域の平均正答率は、市の平均を2.3ポイント下回っている。</li> <li>○漢字の読み書きは、出題された問題のほとんどが88%から97%の正答率であった。</li> <li>●文脈に沿って適切に漢字を使うこと、3字の熟語の構成、尊敬語の使い方については市の平均より低く課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの</li> <li>●課題が見られるもの</li> <li>・言語の単元等ではより丁寧に指導を行う。朝の学習や家庭学習等で、言語にまつわるワークシートなどを使い繰り返し学習ができるようにする。国語での学びにこだわらず、各教科の学習で出てくる語句なども授業内で取り上げ、熟語について意識をもてるような働きかけを行っていく。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の平均正答率は、市の平均を3.7ポイント上回っている。</li> <li>○情報を理解し、文章をまとめて書く力がついてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの</li> <li>●課題が見られるもの</li> <li>・今後も今までの学習活動を継続して行っていく。国語以外の教科でも、どこからどんなことが分かるのか根拠を明らかにした読み取りをしていくとともに、読み取ったことを端的によりわかりやすく表すことにも意識を向けさせることで、更に書く力を伸ばしていく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の平均正答率は、市の平均と同程度であった。</li> <li>○漢字の由来については、理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの</li> <li>●課題が見られるもの</li> <li>・今後も今までの学習活動を継続して行っていくとともに、漢字の由来についての学びを深めていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この領域の平均正答率は市の平均をわずかに下回っている。</li> <li>○話し手の目的に応じて、内容を捉えることはできている。</li> <li>●話し合いをスムーズに進めるための司会者の工夫を捉えたり、話し合いのテーマに合わない発言に対して司会者はどのような言葉を掛けたらよいかを記述する設問については課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの</li> <li>●課題が見られるもの</li> <li>・司会者の役割についての学習を行い、実際に経験することで、司会者の工夫を理解できるようにしていく。国語の授業で学んだことを、学級活動の中でも生かしていけるようにしていく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この領域の平均正答率は、市の平均を4.1ポイント下回っている。</li> <li>○表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書いたり目的に応じた文章を書いたりすることは、市の平均を3～6ポイント上回っている。</li> <li>●「指定された長さで書く」「自分の考えを2段落に分けて書く」「簡潔に書く」といった条件を与えられて書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの</li> <li>●課題が見られるもの</li> <li>・作文指導では、書く時の構成を意識しながら書き進められるような指導を行っていく。文章の書き方の型を提示して一つの方法を体得させつつ、応用できるような力を伸ばしていく。また、条件に合わせて書く機会を意図的に作り、自分の考えを簡潔に端的に書けるようにしていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の平均正答率は他領域と比べて1番高く、市の平均と比べても3.1ポイント上回っている。</li> <li>○物語文では物語全体の内容を問う問題で、いずれも高い水準に近く、よく理解している。</li> <li>●説明文の文章の構成や論の進め方を捉えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの</li> <li>●課題が見られるもの</li> <li>・説明文の学習では、指示語の内容、中心文や中心語句などを的確に読み取る学習を積み重ねていき、段落間の関係を読み取る学習につなげていく。また、読み取ったことを基に文字数や段落数に条件をつけて要点をまとめる学習を行っていくことで、さらに内容に理解につなげる。</li> </ul>

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.5	78.9	75.4
	農業や水産業	77.7	76.1	71.2
	工業生産	64.4	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	79.6	77.6	59.7
	日本の政治	78.3	75.0	79.3
	日本の歴史	75.8	73.1	72.8
観点別	知識・技能	74.9	73.0	71.4
	思考・判断・表現	81.2	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

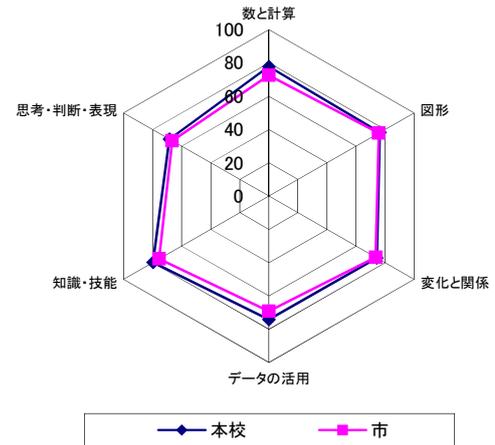
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この領域の正答率は市の平均を0.4ポイント下回っている。</li> <li>●日本の主な地形の名称と位置についての理解度は、市の平均を8%上回っているが、57.7%と不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国名や海洋などの名称や位置関係、国内の気候の特徴など、地理的な基礎知識が定着できるように、地図帳や地球儀、端末を生かして調べる活動を取り入れていく。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均を1.6ポイント上回っている。</li> <li>○日本の農業人口をめぐる課題についての設問の正答率が87.7%と高い。グラフなどの資料を読み取る力は高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを自分の言葉でまとめたり、全体で共有したりすることで、さらに日本の農業や水産業の仕組みについて理解が深まるように指導していく。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均を1.5ポイント上回っている。</li> <li>●大工場と中小工場の工場数、働く人の数、生産額などのデータを活用した解答が求められる設問の正答率が市の平均を上回っているが、58.5%と不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業生産に関わる人々の働きや大工場、中小工場のそれぞれの特色などの基礎的な事項を、教科書やグラフの読み取りをもとに復習していく。</li> </ul>
産業と情報の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均を2%上回っている。</li> <li>○インターネットを利用するときの注意点に関する設問では、正答率が89.2%と高く、情報モラルや利用する際のマナーについて関心があることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種マスメディアの特徴や役割について復習し、互いの共通点や相違点をしっかりと理解できるような指導をしていく。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均を3.3ポイント上回っている。</li> <li>○日本国憲法の三原則についての知識を問う設問では、正答率が市より10ポイント以上高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会、裁判所、内閣の役割や特徴、そして関係性について整理し、関係図などを活用してより理解が深まるように指導する。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均を2.7ポイント上回っている。</li> <li>○歴史的事象に対する知識を問う設問の正答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代の基礎的知識を復習するだけでなく、歴史的事象に対して考えたことを自分の言葉で記述するような時間をさらに増やしていくことで知識を活用し、表現する力を伸ばしたい。</li> </ul>

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.8	72.6	73.1
	図形	76.4	75.7	74.7
	変化と関係	74.4	73.6	66.1
	データの活用	74.1	69.2	70.7
観点別	知識・技能	79.7	75.5	74.4
	思考・判断・表現	68.5	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均を5.2ポイント上回っており、他領域と比べても一番高い。</li> <li>○小数、分数の計算や文章問題等、この領域のいずれの問題も市の平均を上回っていた。特に、分数のかけ算、わり算の計算の正答率はいずれもほぼ90%で、よく理解しているといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今後も、計算の意味ややり方が十分身に付くよう、反復練習や個に応じた指導等を続けていく。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均と同程度である。</li> <li>○平行四辺形の面積を求める問題正答率は85.4%で、市の平均より16.8ポイント高く、よく理解されている。</li> <li>●線対称な図形の対応する点を見付ける問題、三角形の外角を求める問題は十分理解しているとは言えない。他領域と比べて図形領域は正答率が低めであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○その学年で学習する図形領域の学習において、作図や操作などの活動を多く取り入れ、図形をイメージできるようにしていくことで、理解を深められるようにする。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均と同程度である。</li> <li>○2分の1が50%であることはよく理解されている。</li> <li>●分速を秒速や時速に直す速さの問題、面積と人数から4つの公園の面積の混み具合を考える問題の正答率はいずれも60%台で、十分理解しているとは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「単位量あたりの大きさ」と「速さ」の問題は、引き続き数直線や図などを用いて考え、自分で説明する活動を増やしながら定着を図っていく。その際、問題の中から「くらべられる量」と「もとにする量」、「道のり」「速さ」「時間」を正確に捉えられるよう指導を行う。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この領域の正答率は市の平均を4.9ポイント上回っている。</li> <li>○●ドットプロットから最頻値を読み取ったり、度数分布表に表したりする問題は、90%以上の児童が正答であったが、ある記録が全体から見ると高いかどうかを代表地を使って説明する問題の正答率は33.8%で、市の平均を上回っているものの課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均値、中央値、最頻値の意味を十分に理解できるようにするとともに、それらの代表値を使ったデータの見方を話合う活動を多く取り入れ、多様なグラフの見方ができるようにする。また、読み取ったことを書いて説明する活動や、書いたことを見直す活動を取り入れることで、端的に分かりやすく説明する力をつける。</li> </ul>

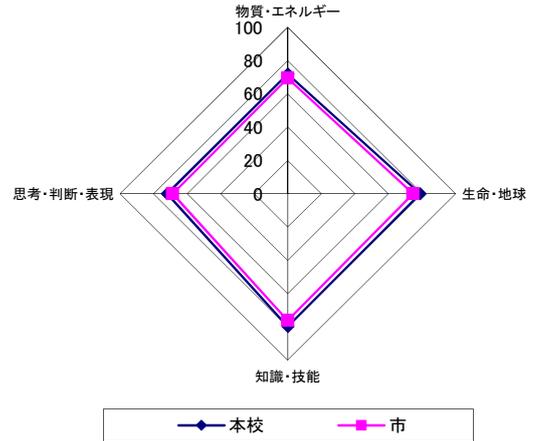
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

# 宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.9	69.3	65.7
	生命・地球	78.8	74.7	77.8
観点別	知識・技能	79.8	76.2	76.4
	思考・判断・表現	71.9	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○この領域の平均正答率は市の平均を2.6ポイント上回っている。</p> <p>○「ふりこのきまり」の、ふりこの1往復する時間を求める問題で、市の正答率より14.5%上回っている。</p> <p>○「電流のはたらき」の、電磁石の極と方位磁針の指す向きを選択する問題で、市の正答率より9.9ポイント上回っている。</p> <p>●「物のとけ方」の、ろ過の操作についての問題で、市の正答率より7.3ポイント下回っている。</p>	<p>・学習内容が生活の場面で生かされたり当てはまっていたりすることを、学習の中に盛り込みながら授業を行ってきたことで、具体的な場面を想定し記述して表現する力が高まったと考えられる。今後も学習内容の有用感を大切にした授業展開を実践していく。</p> <p>・実験による学習内容の理解について、問題によって理解度が大きく異なっていた。復習し、必要に応じて追実験するなど指導の工夫改善をしていく。</p>
生命・地球	<p>○この領域の平均正答率は市の平均を4.1ポイント上回っている。</p> <p>○「植物のつくりとはたらき」の、日光が植物の生育に必要なことを、葉のでんぷんをつくるはたらきの観点から記述する問題では、市の平均正答率よりも11.6ポイント上回っている。</p> <p>○「月と太陽」の、月が輝いて見える理由を問う問題では、市の平均正答率よりも15.9ポイント上回っている。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」の、植物の葉のでんぷんをつくるはたらきと日光の関係を調べるために、対照実験を行った理由を推測する問題では、市の平均正答率よりも10.6ポイント下回っている。</p>	<p>・生命・地球に関する図書資料や映像資料を多く活用し、実験や観察が難しい内容についての定着につなげていく。</p> <p>・これまで学んだ観察や実験の方法を、身近な課題を解決するために応用する力を育てたい。そのために、自由研究を進めたり、課題解決のための方策を考える話し合いを設けたりして、主体的に課題に取り組もうとする意欲を喚起させる指導の工夫改善をしていく。</p>

## 宇都宮市立豊郷中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1話す・書く力の向上 2漢字の書き、構成、使い 方に関することや敬語など 言語事項に関すること 3数量や図形の基礎的な 事項の定着	1根拠を基に話す・書く。端的に、順序良 く、分かりやすく話す・書く。(授業のまと め、振り返り、自分の考えを表すときなど) 2漢字は文章の中で使えるよう書く指導と 合わせて行う。 3繰り返し学習や家庭学習の工夫	1国語の「聞く・話す」領域については、市の平均と ほぼ同等であった。「書く」領域については、条件に 合わせて書くことに課題がある。 2漢字、言語事項については、ほぼ身につけてきた が、文法やローマ字に課題がある。 3数量の領域についてはどの学年も改善が見られ たが、図形に関しては十分ではない。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「話す・書く」力を更に高めるために、国語以外の教科でも、自分の考えを文章にする活動を意図的に設け積み重ねていく。考えたことをわかりやすく表現し伝えることができるようにするため、根拠や理由を明らかにして話したり書いたりすること、順序だてて端的に話したり書いたりすることについて、教科や教科以外の活動の中でも指導していく。また、字数や段落など条件に合った書き方ができるよう、学年の発達段階に合わせて指導していく。その際文章の中で漢字を使えるようにするため、各学年の実態に合わせて授業や家庭学習を工夫していく。